



### 小学生のボランティア

再び岩手県大槌町へ④

今回のボランティアの参加者に小学生の女の子がいるのにびっくり。親と一緒にだろうと



約30人の児童の前でクイズをする杏ちゃん

思っていたら、一人での参加という。自分の子供のころに比べ、余りに大きい落差。「一体、どんな女の子なのだろう」。

打ち合わせ会は母親と一緒にだった。その母親から「藤屋さん！」と言われて思い出した。彼女は私が若いころ、中・高校生日韓交流合同キャンプを実施した時の中学生だった。今は結婚して四人の子供がおり、ボランティアに参加する小学六年の女の子が一番上の子だという。名前は杏（あん）ちゃん。

私が歳を取るのも当たり前前と実感せざるを得ない。

杏ちゃんはカトリック防府教会所属、併設の防府暁の星幼稚園の卒園生だ。

実は暁の星幼稚園の足立先生はボランティアとして今までに五回、被災地を訪れている。私が参加した昨年冬、そして今回も一緒に春休みに三回目の被災地ボランティアで大船渡に行ったが、その際、一緒に防府教会の小学



学童保育での手伝い（左端が杏ちゃん）

十四人が参加している。その中心が足立先生なのだ。毎回、現地でも感じたことを体験記にして報告会も開いている。だから教会内でも活動の輪が広がり、参加者も多いのだろう。

杏ちゃんのほかにも卒園者が参加しており、幼稚園の先生としての影響力の大きさに驚くとともに幼児教育の大切さを肌で感じる。とにかく「率先垂範」は自然と周囲の人に大きな影響を与えている。



さて、今回、杏ちゃんの行動に注目していたが、笑顔で大人に交じって自分のできることを積極的に手伝っていた。少子化時代であるが、杏ちゃんは四人兄弟の一番上だからか、実にしっかりしている。できることなら兄弟は多い方が良い。

学童保育の手伝いで、杏ちゃんは用意してきた絵を見せながら「ダジャレクイズ」で児童の心をつかむ。家では自分の下の三人の兄弟と生活しているからか、児童の扱い方がうまい。

帰りの新幹線の中で今回の感想を聞くと「来て良かった。機会があればまた参加したい」という。大人顔負けである。

ボランティア打ち合わせ会で、被災地で自分ができるようなことを出し合った時、お母さんに言われて杏ちゃんは、まいった。

さすが杏ちゃんのお母さん。いや、まいった、まいった。

積極的に若者をリードする  
足立先生（右）